



▲3月1日に行われた災害予想区域図の説明会  
(若草つどいセンター)

市民リポーター  
**片岡 光子さん**

●かたおか みつこ  
富岸町在住。  
山登りが大好きな主婦。



# 災害から 身を守る

## 災害予想区域図作成の取り組み

**なぜ災害予想区域図を  
必要とするのでしょうか**

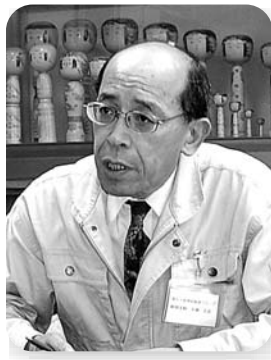
世界各地で大きな災害が起きて  
いる時に、市が災害予想区域図  
(ハザードマップ)を作成するこ  
とは、大いに市民の期待するこ  
ろです。災害予想区域図の目的や  
活用方法などについて市総務グル  
ープで防災を担当している加藤正  
吉さんに尋ねました。

「平成12年の有珠山噴火の時に  
は火山の災害予想区域図があった  
ので、あれだけの災害なのに死者  
が1人もでなかったと言われてい  
ます。それで必要だと認識しまし  
た。自然災害はいつ起こるか分か

わたしたちの住む登別市は、美  
しい山や川、海、そして温泉など  
の自然にとっても恵まれています。

一方、美しい自然は時としてわ  
たしたちを突然襲ってきます。

市民の皆さんが災害から自分の  
命を守るためにはどうすればよい  
のか、災害予想区域図の作成に取  
り組んでいる市などを訪問し、防  
災の心構えなどについてレポート  
しました。



加藤 正吉さん

りません。そのために事前にどこ  
が危険なのか。危険が迫った時に  
自分たちはどういう行動をとれば  
いいのか。それから、災害に備え  
て日ごろから自分たちはどうい  
う準備をすればいいのか。皆さんが  
自分自身の身を守るための情報の  
一つとして災害予想区域図を作成  
しました。作成にあたっては、室  
蘭テクノセンターと室蘭工業大学  
との共同により進めることとし、  
災害に対する市民の意識の啓発と

海岸線の近くに住む方は津波です  
とか、山側に住む方は土砂災害で  
すとか、地域によって災害の種類  
が違いますので、それぞれの地域  
にあった避難訓練などに活用でき  
れば良いと考えています。それか  
ら、自主防災組織や町内会などで  
防災訓練を行うときに使っていた  
だければと思っ「ています」と話し  
てくれました。

災害予想区域図は、平成17年度  
に調査や被害の検討を行い、平成  
18年度に皆さんのご家庭に配布す  
ることになっています。

**自分の命は自分で守  
ることが大切です**

室蘭工業大学で災害予想区域図  
作成の調整に当たられた教授の岸  
徳光さんに作成の経緯や災害の予  
想などについて伺いました。



岸 徳光さん

「室蘭工業大学には津波や川、  
地盤、火山の専門の先生方がいる  
ことと、大学としても地域に貢献  
したいということで引き受けまし  
た。登別市は過去に大雨による大